
夜空

風火

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜空

【Nコード】

N4901E

【作者名】

風火

【あらすじ】

雪奈は幼いころ両親が離婚し兄と別れて暮らすことになった。ある日学校で兄に、似ている人が転校して来たが……

第1話「転入生」

ブー！ブー！ケイタイの目覚ましがなる。この音で少女は目覚めた。「まただ……。」「少女は一人、つぶやく。あの人と別れてから、今まで何回あの時の夢を見ているのかわからない。コンコン。

ドアの叩く音がした。

「雪奈。未羽来てるよ。」「この声は……。春樹だ。春樹は雪奈の双子の弟。未羽はおさなじみ。

「先にした降りてて。」「そういつと雪奈は急いで制服に着替えた。

「雪奈。おはよう。」「未羽が言う。

「未羽！おはよ。」「雪奈もあいさつをする。

いつも朝は、春樹・未羽の3人で登校している。クラスも一緒だ。先生が入ってきていきなり

「転入生を紹介する！」といった。クラスがざわめく。

「いまだき？」

「へんなの〜！」そんな声が聞こえる中、転入生が入ってきた。

「加賀啓です。よろしく。」「と啓が言う。

「じゃあ席は山野の隣だ。」「先生が言う。女子がざわめいているのが良くわかる。

「あの、わからないことあったら教えてくださいね。」「啓が笑って言う。雪奈は啓があの人に、似ているように思った。

「山野雪奈です。よろしく、加賀君。あとで校舎案内してあげるね。

「雪奈も笑う。こうして一日は過ぎた。

第1話「転入生」(後書き)

第二作目やっと完成しました。感想・アドバイスなどもお待ちしております。
おります。

一日

次の日。雪奈はいつもより早く目が覚めた。今日は春樹は部活の朝練だった。未羽は少し遅れた学校に来るそうだ。制服に着替え家を出て少し歩いたところで後ろから声をかけられた。

「山野！」

それは啓だった。

「あつ・・・おはよ、加賀君」

「あれ？今日は一人か？」

「まあ」

「んじゃ、一緒に行こうぜ」

「加賀君って不思議だな。お兄ちゃんに似てる・・・」

雪奈は思った。

「山野ってさ友達少ないほう？」 啓が聞いてきた。

「何で？」 雪奈は聞き返す。

「いや、昨日山野見てたらさっグループの輪には入れてないみたいだったしあまり感情を表に出さない感じがするんだ」

「出さないんじゃなくて出せないの」

「それってどうゆうことだ？」 啓が聞く。

「ご・ごめん変なこと言っただけは忘れて！」 雪奈は慌あわてて言う。

「このことは言えない」

雪奈は一度幼いころ事故で感情が作れなくなった。春樹にも未羽言っていない。

雪奈だけの秘密。こんなことを話してるうちに学校に着いた。

一時間目は算数のテスト返しだった。雪奈・春樹・未羽は算数は苦手だった。

〈放課後〉

「啓！算数教えてくれ！」

「春樹、そんなに点悪かった？」

「マジで頼むわ〜！俺ん家でさ」

いつの間にか春樹と啓は仲良くなっていた。

「わかった」啓はしかたなさそうに言う。

「雪奈、いいよね？」

春樹は雪奈に許可を取る。

「私は別に構わないけど・・・」

「ありがとうっ！雪奈！！」

と、嬉しそうに言っつて春樹は雪奈に抱きつく。

「は、春樹っ・・・」

雪奈は少し焦り、春樹から離れる。

「あ、ごめん。」

謝る春樹だが全くの反省していない様子だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4901e/>

夜空

2010年10月10日00時45分発行